

## 4 斑点病

### (1) 発生部位及び症状

ア 主に葉で発生し、果実での発病はまれです。  
イ 初め、下位葉に緑褐色水浸状の小斑点を生じ、後に径2～3mmで周りが黒褐色、中心がやや光沢のある灰褐色の斑点となります。病斑の周囲は黄色に縁取られ、後に病斑の中心部には穴があきます。

ウ 病勢が進むと次第に上位葉に蔓延し、多発時には下位葉から黄化、枯死します。

### (2) 発生環境（多発の要因）

ア 前作の被害残渣上に形成される胞子が第一次伝染源となり感染し、葉上にできた病斑上に形成された胞子によって次々に伝搬します。

イ 20～25℃のやや冷涼な気温と多湿条件下で発生しやすく、特にハウス栽培で発生が多くなります。

### (3) 防除方法

ア 抵抗性品種を作付しましょう。

イ 多発すると防除が難しくなるので、病斑を認めたら薬剤を散布します。

ウ 被害残渣をほ場に残さないようにしましょう。



写真 斑点病の症状

## ●その他の病害虫

現在、留萌管内のミニトマトの主要病害は、灰色かび病、斑点病です。道内他産地では様々な病害虫が発生しており、以下に上げる病害虫の侵入に注意が必要です。

今回は被害の可能性のある病害虫の症状のみ紹介します。

### 1 土壌病害虫

土壌病害虫は、一度侵入を許すと防除が非常に困難です。侵入後の防除対策は土壌消毒や接木栽培など、多大な労力と資材費がかかりますので、特に注意が必要です。発生がみられた場合は 普及センターにご相談下さい。

注意が必要な主な土壌病害虫は、①萎ちよう病、②根腐萎ちよう病、③半身萎ちよう病、

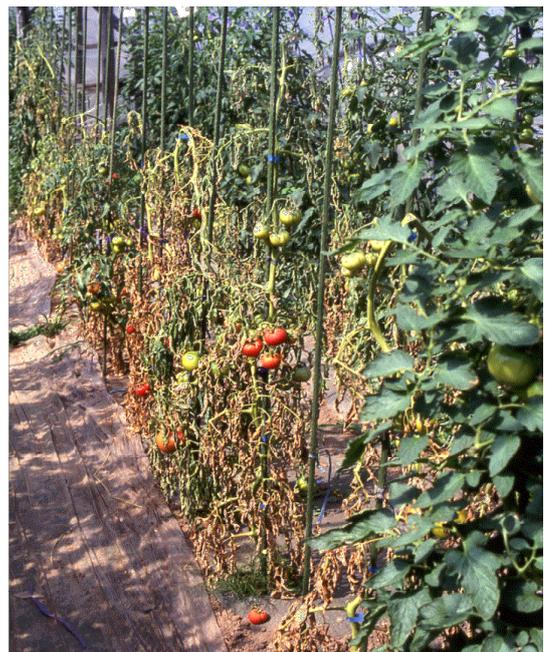


写真 土壌病害が多発したほ場

④青枯病、⑤かいよう病、⑥ネコブセンチュウなどで、道内各産地で発生が見られます。これらの病虫害には抵抗性品種が利用されていますが、近年、これらの抵抗性を打ち破る病害が多発しています。

## 2 ナスハモグリバエ

### (1) 被害部位及び症状

ア 幼虫が葉の表皮内部に寄生し、内部をトンネル状に食害します。

イ 成虫は2mm程度の黄色いハエで、葉にかすり状の産卵痕を残します。



写真 ナスハモグリバエ成虫と産卵痕



写真 葉の内部に寄生した幼虫

## 3 スリップス (アザミウマ類)

### (1) 被害部位及び症状

ア 北海道ではヒラズハナアザミウマやミカンキイロアザミウマの発生が見られます。

イ 体長2mm程度の細長い体型の虫で、花粉を好み花に寄生することが多いですが、ミカンキイロアザミウマなど、葉に寄生する種類もあります。

ウ 花や幼果に寄生した場合、果実に雲形の白ぶくれ症状を発生させ、商品価値を下げることがあります。

エ ミカンキイロアザミウマはトマト黄化えそウイルス (TSWV) を媒介します。道内でも一部被害が見られます。



写真 スリップス被害果 (大玉トマト)

#### 4 アブラムシ類

##### (1) 被害部位及び症状

ア モモアカアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシ、ワタアブラムシなどが寄生します。

イ ウイルス病を伝搬するので注意が必要です。

ウ 多発時にはアブラムシの排泄物にかびが生じ、果実にすすがついたように汚れる被害が見られます。



写真 葉裏面に寄生したアブラムシ

#### 5 オオタバコガ

##### (1) 被害部位及び症状

ア 蛾の幼虫が果実に穴を開け、内部に侵入し食害します。

イ 大型の蛾で飛来害虫のため、防虫ネットによって侵入を阻止します。



写真 オオタバコガの食害痕（ミニトマト） 写真 内部を食害するオオタバコガの幼虫